

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893600193		
法人名	株式会社 あっぷる		
事業所名	あっぷるグループホームみつ		
所在地	たつの市御津町釜屋313-3		
自己評価作成日	令和3年2月4日	評価結果市町村受理日	令和3年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ前は、近隣の四季折々の花々や自然を楽しんで頂くという事を重点において支援していましたが、このコロナ禍であるがゆえになかなか外部との繋がりを持つ事が少ない一年でした。そんな中で、施設内の利用者様同士や職員との協力から、喜び・楽しみを見つけて頂くような施設づくりをしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2893600193-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和3年3月12日		

御津町の綾部山梅林や世界梅公園の近くにあり、自然に囲まれて静かな環境にある事業所である。当日は菜の花が満開の季節で、散歩で利用者と一緒に見に行かれることもある。季節ごとに見られる自然の素晴らしさは事業所のアピールポイントの一つであり、利用者と職員と一緒に楽しめるよう時間をつくっている。管理者はじめ職員は、新型コロナウイルス感染症対策を続ける中で、外出できないこの状況を事業所内でどのようなことができるのか模索しているが、毎日、食前に職員が交代で行っている口腔体操、リハビリ体操、歌やクイズなども、日々の暮らしにメリハリを与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みのある自然とのふれあいを大切にします。という理念を軸にしています。コロナ禍でなかなか外出も出来なくなりましたが、今咲いている花を折り紙で作成して頂いたり季節感のある施設内の行事等で、楽しんで頂いています。	事業所独自に地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくり、玄関に貼り出し、パンフレットにも掲載されている。理念の5項目の中の『自然とのふれあい』に重点を置き、日々の実践に取り組まれている。	職員一人ひとりが、一項目だけではなく、事業所の5項目全ての理念を理解し、日々の関わりの中で実践できるよう、理念を共有する場や機会を作ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	市内全域の避難訓練に参加していただいたり、職員と近所の散歩に出かけた時等には、近隣の方からの挨拶に笑顔で職員と一緒に答えられています。	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、実施できなかったが、例年は、保育園児との交流や町のイベント、夏祭り等、定期的に地域の方々との交流が持たれている。天気の良い日は、散歩に出かけられ、近隣の方々と挨拶をされたり、昨年11月に実施された、地域の合同避難訓練に参加して、地域住民の方々との交流をされるなどコロナ禍の中、可能な限りの交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、地域の方を施設内にお招きする事が出来てはいたのですが、近所の散歩等に出掛けている時、認知症の方に対する声掛けや、歩く速度、支援の仕方等を見て頂き、感じてもらえるような対応を心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催される運営推進会議もコロナ禍の為に2回しか開催されていませんが、報告書等は提出し施設内のサービス内容はお伝えしています。中止の連絡を自治会の方にお伝えする際には、地域での変わった事例がないか、お尋ねしたりして少しでも交流ができるよう心掛けています。	例年であれば、2か月に一度、市の高年福祉課職員、自治会代表、家族代表が集まって、運営推進会議が開催されているが、今年度の実施は、新型コロナウイルス感染症防止のため、2回のみとなっている。2か月毎に利用者の近況を知らせる写真が掲載された議事録を作成し、家族が施設に訪問された際に活動報告をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年6回開催される運営推進会議もコロナ禍の為に2回しか集まっていたが、報告書等は予定通り提出し施設内のサービス内容はお伝えしています。またその際には、地域での変わった事例がないか、お尋ねしたりして少しでも交流ができるよう心掛けています。	例年であれば、運営推進会議に高年福祉課の職員が参加されて、事業所の実情の報告できていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、会議開催が困難であった。しかし、会議中止の連絡を入れる時に市からの情報を得たり、報告書として作成された運営会議議事録を市に持参するなど、市の担当者との協力関係を築くよう取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例研修を実施、身体拘束がどのような負担を利用者に与えてしまうか、職員と話し合い共有しています。毎月、身体拘束排除のための委員会を実施している。職員の様子等もチェックし、個別で話を聞ける時間をつくったりして、ストレスをため込まない環境づくりに努めています。	身体拘束に関する研修は、事業所内で年2回開催している。研修には、パート職員を含む全員が参加し、研修報告もされている。現在ナースコールを押す事ができず、転倒の危険のある利用者3名の方について、家族の了承を得た上でセンサーマットを使用しているが、身体拘束排除のための委員会を作り、身体拘束廃止ミーティングを毎月開催して定期的に検討する機会を設けている。玄関は、夜間以外は施錠されおらず、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例研修を実施、虐待に繋がる原因等を職員で話し合い共有しています。職員のストレスが原因とならないように、協力する関係づくりにも努めています。(社内の衛生委員会によるストレスチェック・虐待の芽チェックシート参照)	虐待防止のための研修には、パート職員を含む全員が参加し、研修報告もされている。法人内に統一したマニュアルがあり、それを基に研修している。職員のストレスチェックは年2回、『虐待の芽チェックシート』による振り返りは毎月実施され、管理者が個別で話しをする機会を設けるなど、虐待防止に努めている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例研修を実施、今現在施設内では利用する方はいないですが、どんな時に必要であるか等を理解するよう努めています。	現在、成年後見制度を利用している対象者はいないが、成年後見制度等、権利擁護に関する制度の研修が年1回実施され、職員が学ぶ機会を持ち周知に努めている。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書、重要事項説明書を用いて個人情報保護、報酬、加算、解約についてもご本人、ご家族様に分かりやすく説明し納得された上で同意書に署名・捺印していただいています。	契約前には、事前にパンフレットで料金等について十分な説明を行い、実際の契約時には、重要事項説明書、契約書を用いて説明し、納得を得た上で契約を行っている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、家族様同士の意見交換や外部の方を施設内へ招き入れ、お話を聞く機会が非常に少ない一年でした。家族様とは、受診時に玄関先での立ち話や、お電話で近況をお話するぐらいで、十分な交流もなく意見の反映までは出来てないように思います。	コロナ禍により、家族との意見交換の機会が少なくなっているが、病院受診時などの機会を利用して、家族の意見を聞くように努めている。家族から、直接本人の顔を見たいとの希望を受け、窓越しでの面会を実施したり、遠方の家族に対し、オンラインでの面会を実施するなど、家族の意見、要望をサービスに反映させるよう努めている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が集まるミーティングと職員のミーティングを毎月行っています。ミーティング以外の普段の会話の中からも、いい意見が出れば、すぐに実行に移すよう努めています。	毎月行っている職員ミーティングや日常の業務の中でも、常時職員の意見、提案を聞く機会を設けており、職員から近隣の花の開花情報を得れば、随時、お花見ドライブに出かけたりしている。また、「口腔ケアの時に、洗面台の前に常時イスを設置した方が良いのではないか」という提案に即応することで、利用者の安全対策ができたという事例があった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力により、適材適所の役割を持ち、やりがいを感じながら仕事ができるように、職員とのコミュニケーションをもち、職員の個々のモチベーションが上がるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例研修に加え、外部からの講師をお招きして、認知症の研修も行っています。認知症ケア専門士の資格取得の為に2月に受験しました。			

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する場の地域ケア会議もコロナ禍で中止になる事が多くネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動が充分に出来ていません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の方には、今までの日常生活、主にストレス等を家族や、本人からもアセスメントをして、出来るだけ安心し、施設に馴染まれるように、職員全員で努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんの事、家族にも、利用者がどのように施設で生活を送ってほしいかとの要望を聞き取りしながら、本人にとってよりよい、生活が送れるよう、アドバイスを頂いています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前や契約時の面談の時の家族の意見・要望・今後の在り方等も含め利用者に必要とされる支援ができるように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は施設内では、共に暮らす者同士という事を職員全員で理解し、人生の先輩として、色々な意見等にも耳を傾け、役割を持って生活していただくよう努めています。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でなかなか、家族との面会・外出等も出来なかった一年ですが、web面会や限られた時間制限の中での面会でも、利用者にとってはやはり家族との時間が大切である事が理解できた一年でもありました。その事を家族にもお伝えして、一緒に本人を支えていくよう努めている。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人以外の面会を制限していたので、友人や馴染みの方との交流があまりありませんでした。その中でもオンライン面会で近隣の家族だけで無く遠方の家族とも顔を見ながら関わられたのは良い取り組みとなりました。	新型コロナウイルス感染症防止のため、家族以外の面会制限があったり、家族も外出を控えられたこともあり、馴染みの場に行ったり、人との交流が困難な状況にあるが、今まで利用されていた美容院や、歯科などを継続して利用されている方もおられ、スムーズに外出できるよう支援している。また、オンライン面会を実施し、なかなか会えない遠方の家族との面会を可能にするなど、支援に努めている。	

自己 者 第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	何事にも、職員と利用者共同して行い、その中で利用者同士の繋がりや、支え合う行動を大切にしよう努めています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもその先の利用者の生活が安心・安全な暮らしができるように、これまでの生活習慣や支援での工夫の情報を家族の同意を得て提供しよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話やコミュニケーションの中からも、本人の思いや意向等を感じとったり、日々変わる身体状況等を十分に理解しながら、どのようなケアが今必要であるのか、職員間で共有するように心がけている。	日常の関わりの中で、利用者の意向を聞いたり、思いを感じ取るよう努めている。現在、意向把握が困難な利用者は少ないが、会話や関わりの中で喜ぶ様子などを表情で感じとり、把握に努めている。得られた情報は、職員間の申し送りでも共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今は同じ施設内で生活しておられる利用者ですが、それぞれ今までの生活様式・家族構成・趣味・思考等、違った暮らしがあった事を踏まえて、施設内での穏やかな、実りある生活を送っていただけるよう努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少人数のグループホームならではの、ゆったりした時間で、利用者の出来る事・しようとしている事をしっかりと把握していき、出来ない職員が決めつける事なく、本来の利用者の力量を職員が理解できるよう努めている。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとり、身体状況等違うので、その人にあった、その人が求める支援ができるような介護計画を作成しています。そのために家族からの聞き取りや、職員からの意見なども反映したケアができるように努めています。	利用者毎の担当は決めず、全職員が全ての利用者の様子や気になることなど、『気づきシート』のような形で記録に残して、月1回の職員ミーティングで共有し、介護計画の目標に反映させている。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、担当者会議の家族参加はできなかったが、病院受診時など家族が施設訪問される時に意見を聞いて、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発した言葉や、その時の行動等も記録して、職員間で意見交換したり、情報を共有しながらよりよい支援ができるよう努めています。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は介護保険サービス以外のサービスを必要・希望される方はおられません、その時々ニーズに合わせて対応していく方向です。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の病院に受診されたり。今まで利用されていた美容院等にいかれている方もおられますが、今年度は地域資源との協働があまりできていませんでした。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的には今までと同じ医院とし、希望された方には、近隣医院を紹介しています。受診は基本的には家族に対応してもらっていますが、希望があった場合や緊急時には職員が対応し症状報告しています。	現在、施設の協力医療機関が主治医となっている利用者は2名で、7名の方はこれまでのかかりつけ医が主治医となっている。病院受診の際は、近況の記録や写真などを準備して家族に預けるなど、受診の支援を行うと共に主治医との関係構築に努めている。また、主治医、家族の連絡先一覧を作成し、緊急時には、職員が直接、医療機関に症状の報告を行っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を密にして、利用者の体調の変化等に素早く対応できるように努めています。訪問看護師からの助言は、家族にも連絡し対応しています。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はすぐに情報提供しています。退院前のカンファレンスにも、参加させていただき、早期退院や退院後に体調変化があれば、連絡して指示を仰いでいます。	利用者が入院した時は、入院情報提供書により、病院関係者に情報提供し、退院時には、カンファレンスに参加して、スムーズな退院ができるよう努めている。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には看取りについて説明を行い、共有確認をしています。利用者の体調が変化することはもとより、家族の終末期の思い等も変化するので、定期的に話し合いを持って意向を確認して職員と共有しています。	利用者の状態が変化した場合、『医療連携体制の要望書』により、訪問看護サービスの導入に加え、最期を迎える場所、治療の希望内容など確認しているが、契約時に『重度化した場合における対応や看取りの指針』に関する書面はない。	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について、契約時の早い段階で、話し合いの場を設け、本人、家族、職員間で対応方針が共有できるよう、書面を整備し説明の機会を設けることが望まれる。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期研修で緊急時の対応の機会を設けています。事故発生を想定した避難訓練や、AED講習も定期的に行っています。利用者急変時を想定して、緊急時連絡体制の研修を行っています。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練を実施し、その後に職員と良かった点・問題点等を話し合っており共有しています。ファザードマップ等も利用し今現在の施設の立地環境、避難場所等も確認しています。隣接する多機能との合同訓練で協力体制も整えています。	地震、津波、火災を想定し、年4回避難訓練を実施している。利用者全員が参加され、一次避難所は地域の公民館、二次避難所は小学校へと誘導を行い、これについての報告書も作成されている。近隣住民には、消防訓練を見ていただき、災害時の協力依頼も行っている。事業所独自の備蓄に関しては、飲料水のみとなっている。	法人全体での、備蓄はあるが、施設独自では、飲料水のみであるため、災害発生時に備えて、事業所独自に、食料品や寒さをしのげるような物品等も準備されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期研修でプライバシー保護について学ぶ機会をもっています。利用者一人ひとり色々な思い、考えがあり、全て同じケアでは成り立たない事を職員で理解・共有しています。そのために、日ごろの利用者との会話等の時間を大切にして、職員の一人ひとりのきずきがあれば、全職員共有していくように努めています。	プライバシー保護の研修を年二回開催され、職員全員が、利用者一人ひとりの人格を尊重するケアについて考え学ぶ機会を持っている。浴室は個浴となっており、職員がマンツーマンで対応し、入り口はデイルームから見えない位置にある等、プライバシーの保護に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの思いをくみとれるよう、心掛けています。利用者の表現の仕方はそれぞれであって、表情・行動・発言等からも、思いが感じとれるよう日頃からの利用者とのかかわりを密にして、自己決定・自立支援できるよう努めています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々のペースを職員が把握し、無理強いすることなく、その方のペースに出来るだけ寄り添いながら、他の方とも調和がとれるよう配慮し支援しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人にその日着る服は決めて頂き、季節にあった洋服の提案をしたり、色合い等、職員と一緒に楽しみながら行っていくよう努めています。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で外食に行く機会がまったくなかった一年でもありましたが、行事・季節にあったメニューの取り寄せ弁当であったり、畑で出来た、野菜を使ったメニューを考えて頂き、職員と一緒に作って食べてもらったりしています。食事前のテーブルふき等、職員見守りのもと手伝って頂いています。	食事の準備は、手伝われる利用者もあり、畑で収穫した野菜が食卓を彩ることもある。朝食は、パンとスープ果物などで、昼食と夕食は配達された食材を事業所で仕上げて配膳している。利用者はテーブルを拭いたり、下膳を手伝っている。畑でとれる野菜は大根や芋で煮物にしてメニューに加わることもある。新型コロナウイルス感染症対策を十分にしながら、利用者ができることを一緒に見守りながら行っている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者によってのもともとの食事量の違いや、食べるペースも違うので、それぞれの声掛けをして、できるだけ無理なく必要な栄養は摂取していただくようにしています。特に水分摂取には力をいれて、こまめに水分提供し、脱水等ないように努めました。摂取時の嚥下にも気をつけ、食事形態を変えたりして対応しています。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昨年9月より、口腔衛生管理体制加算を取得しています。かかりつけの歯科医に月に一回以上の口腔衛生に関する講習を受け職員全体で利用者の口腔ケアに努めています。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握する事によって、声掛けをタイミングよくしたり、定時のトイレ誘導の際には、適切な声掛けと、出来る事はご自身でしていただくよう声掛け行い、羞恥心・恐怖心のないよう心掛け支援しています。	排泄チェック表の記録から個々のタイミングを見ながら支援している。日常的なおむつの使用者はいない。体調の変化によりおむつを使用することもあるが、元気になられたらまた、紙パンツへ戻して対応している。プライバシーへの配慮も忘れないように心掛けており、それぞれのパターンを職員で共有しながら支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ、自然な排便があるように、適度な運動や、こまめに水分摂取していただいています。定時のトイレ誘導等も行っております。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を一つの楽しみにして頂きたく、入浴の際はゆっくり時間をとり、職員と一対一の時間を利用して、色々なお話しができる雰囲気づくりに心掛けています。	利用者の多くは午後からのお昼寝したい方が多く、午前中の中の入浴を行っている。週2回の入浴を皆さんができるように毎日の声かけや順番もあらかじめ決めずにその日の様子を見ながら順番も決めている。冬にはゆず湯も準備して楽しんでもらっている。入浴剤は使用していない。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転がないような支援はしていますが、利用者によっては、日中も少し横になりたい方もおられますので、個々に安心して安眠や休息していただけるよう配慮しています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬の管理をしており、服薬ミスがないよう二重チェックをしています。受診時に薬変更等あれば、職員全員に申し送りして伝え、訪問看護にも薬変更の事伝えてあります。薬変更にともない、利用者の体調の変化等には気をつけ変化があれば、かかりつけ医・家族に連絡しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ、今までの楽しみであった事、出来ていた事を継続できるような支援をしています。時には家族にも協力していただいたりしています。施設内で初めて体験して喜ばれた事なども、他の方との協力での喜びを持って頂けるようにも支援しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出は控えていました。代わりに、YouTube等の旅行番組等見て頂き、職員と一緒に楽しんだりして頂いています。早く自由に外出できる日がくるように、利用者と待ち望んでいます。	自然に囲まれた事業所の良いところを活かし、海沿いをドライブすることもある。月1回はドライブなどで外出するようにしている。畑や近所の花見に出掛けたり、近くから通勤している職員から開花の情報をもらい、季節に応じて利用者と一緒にお花見に行っている。外出する利用者が偏らないような配慮が望ましい。インターネットを利用した旅行の配信番組も好評で、利用者が喜ばれる姿に違った一面にも出会えた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出・外食に出掛ける事がなかった為、お金を使用する場面がなかったです。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で家族との面会も制限された一年でした。当施設では、web面会を楽しんで頂いて、三世代にわたっての会話等もしたりして家族との繋がりを大切にしています。手紙が外部から来た方には、本人が望むのであれば、お返事を書いていただいたり、出来るだけ今までの繋がりが途切れる事なく支援しています。			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアには天窗が二カ所あり、日光の自然な光を取り入れています。フロア内・玄関等に季節にあったもの利用者と一緒飾りつけしたり、利用者の作品や写真を掲示したり、お風呂・トイレ等の位置がわかりやすいように、大きな絵文字等貼って、安心して過ごしていただけるよう努めています。	真ん中の食堂が広く、居室も見渡せる環境である。南側には大きな窓もあり、採光もとれるようになっている。その広い空間を利用して、食事の前には口腔体操や、リハビリ体操を毎日実施しており、口腔ケアだけでなく、声を出して歌を歌ったり、身体を動かして、利用者の良い気分転換や毎日の生活の中でのメリハリとなっている。ソファや椅子なども配置され、それぞれに居心地よい場所となるように配慮されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、自席で過ごしていただいたり、テレビ前のソファで過ごして頂いたり、その方なりに自由に過ごして頂いています。その中で、利用者同士親しく会話されたり、職員と会話されたり、お一人で机にむかわれパズル等されたりしておられます。本人のひざ掛け等を使用しゆったり過ごされています。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は入所時に出来るだけ、今まで使用していた物を持ってきて頂いたり、家族との写真やご自身が作った作品等を飾りつけ安心していただくようにして居心地良い空間づくりに努めています。	以前から使い慣れた筆筒や椅子、洋服かけ、CDプレーヤー、冷蔵庫もおいでられる利用者もあり、壁面には写真や花を飾られている部屋もある。カーテンは、備付があるが、好きな色がいいと個人でもって来られる利用者もある。利用者が居心地よい空間になるように職員は話を聞きながらレイアウトなどを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーである事はもちろんの事、利用者の過ごしている様子を観察して、動線に危険がないか職員で常に話し合っています。安全・安心の中で、利用者のストレスを職員で見だし、自立支援に繋げるよう努めています。			